

讃美歌21 160

- 1 深き悩みより われはみ名を呼ぶ。  
主よ、この叫びを 聞き取りたまえや。  
されど、わが罪は きよきみこころに  
いかで耐えうべき。
- 2 世にある人々 力の限りに、  
主の道を求め いそしみ励めど  
神の恵みに ふさわしき者は  
ただ一人もなし。
- 3 おのれの業には 少しも頼らず、  
おのれの力に 救いを求めず、  
疑うことなく 神のみ言葉に  
望みをおくのみ。
- 4 朝を待ち望む 見張りにもまして  
われらはひたすらに 神を待ち望む。  
疑いの闇は いかにか深くとも  
み力 現れん。
- 5 われらの罪をも すべてつつみたまう  
主のいつくしみは 豊かにあふれて、  
み民のそむきを あがなう牧者の  
恵みはつきせじ。

EG299 T/M Martin Luther

1 Aus tiefer Not schrei' ich zu dir,

Herr Gott, erhör mein Rufen;

Dein' gnädig' Ohren kehr zu mir

Und meiner Bitt sie öffnen!

Denn so du willst das sehen an,

Was Sünd' und Unrecht ist getan,

Wer kann, Herr, vor dir bleiben?

2 Bei dir gilt nichts denn Gnad' und Gunst,

Die ü zu vergeben;

Es ist doch unser Tun umsonst

Auch in dem besten Leben.

Vor dir Niemand sich rühmen kann,

Des muss dich fürchten Jedermann

Und deiner Gnade leben.

- 3 Darum auf Gott will hoffen ich,  
Auf mein Verdienst nicht bauen;  
Auf ihn mein Herz soll lassen sich  
Und seiner Güte trauen,  
Die mir zusagt sein wertes Wort,  
Das ist mein Trost und treuer Hort,  
Des will ich allzeit harren.
- 4 Und ob es währt bis in die Nacht  
Und wieder an den Morgen,  
Doch soll mein Herz an Gottes Macht  
Verzweifeln nicht noch sorgen.  
So tu' Israel rechter Art,  
Der aus dem Geist erzeuget ward  
Und seines Gott's erharre.
- 5 Ob bei uns ist der Sünden viel,  
Bei Gott ist viel mehr Gnaden,  
Sein' Hand zu helfen hat kein Ziel,  
Wie gross auch sei der Schaden.  
Er ist allein der gute Hirt,  
Der Israel erlösen wird  
Aus seinen Sünden allen.

# 「つまずきの石：経済危機と世界」

コリント I 1:23

「・・・私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては、愚かなことですが。」

本日の聖書の箇所は、使徒パウロが書いたとされるものです。パウロは、ローマ書9:32－33で、「見よ、わたしはシオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。この方に信頼する者は、失望させられることはないと書いてあるとおりです。」とも述べています。

この御言葉は、1) 「つまずきの石(イザヤ8:14)」(「イスラエルの二つの家にとっては、妨げの石、つまずきの石となり、エルサレムの住民には罨となり、落とし穴となる」という箇所と、  
2) 「シオンの要石(イザヤ28:16)」(「見よ、わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の貴い 要石(かなめいし)。これに信頼する者は、慌てふためくことがない。」) という、2種類の聖書の箇所に由来する記述と考えられます。

驚いたことに、このテーマに関しては、マルコ、マタイ及びルカによる福音書の3つに並行句があります。そこには、イエス様の たとえ話 が登場するのです。即ち、「家を建てる者たちが捨てた石。それが要の石となった。これは主がなされたこと。私たちの目には不思議なことだ(詩篇118:22－23)」を引用し、イエス様がユダヤ人たちに語っておられるのです。

聖書は、しばしば現代人の理解を超えています。しかし、そもそもイエス様の言葉を理解する人たちがあまりに少ないことは、イエス様自身が、十分にご存じでした。

イエス様が「たとえ話」で語られたのは、格差の大きい世界に生きる人々の考えが、凝り固まっています。イエス様が何を語っても、理解できなかったからです。

「つまずきの石」は、英語で stumbling stones、ドイツ語で stolper Steine と訳されています。「つまずき」の語源は、もともとは、ギリシャ語の「スキャンダル」という言葉と同じです。

これが同時に、「要石(又は礎石)」(keystone, Eckstein)になるというのは、あまりに逆説的なので、現代人は、なかなかついていけないのです。

神様のことや、被造物(この世界)のことを、私たちは、自分の都合のよいように理解し、わかっていると思い込んでいます。このため、この世界では、日々理解を超えることや、「想定外」のことが起こります。世界が逆説で満ちていることに、聖書を読むことで私たちは初めて気づくのです。ところが、私たちは、自分の都合のよいように生きようとし、ほかの人たちを理解せず、被造物にも大きな犠牲を負わせて、生きているのです。

旧約聖書のとてつても古い記述が、旧約聖書レビ記(19:14)にあります。そこには、日常的なことが具体的に書かれているにすぎません。「あなたは、耳の聞こえない人を軽んじてはならない。目の見えない人の前につまずくものを置いてはならない。」

現代世界において、私たちはいつの間にか、強くなることが大事なことだという考えに取りつかれています。18世紀後半以降の、プロテスタンティズムも、そのような人類の歴史の大きな流れに影響を受けてしまいました。その結果、2回の世界大戦を抑止することはできませんでした。こうした考えが、さらに強まる可能性もあります。

こうした考えそのものが、私たちにとって「つまずきの石」であることに気づいていないのかもしれませんが。このつまずきの石を通じて、人類は何度も、方向転換を促されています。そこで起こった飢饉、疫病や疫病も、人類が進化するために、「かなめ石」を生み出すのでしょうか。

2020年2月以降、新型コロナウイルスの世界的蔓延(パンデミック)のなかで、健康や生命の危機が続いています。感染防止対策を繰り返すたびに深刻な経済危機を招くという悪循環から、なかなか解放されません。

しかし人類は、世界の動植物の働きから学び、病原性ウイルスに対して、mRNAの働きを応用し、免疫性を高めるワクチンを、迅速に製造することが可能なことを知らされました。ただし、新たな変異株の出現が、開発途上地域を中心に、新たな感染の深刻化を招くかもしれません。

世界経済の回復への期待が高まる一方で、長期化したコロナ危機のなかで、日本でも倒産や廃業が増加し、家計も経済的に行き詰まり、社会が不安定化するリスクは、依然として大きいのです。

コロナ危機という「つまずきの石」を超え、新たな生命を守り育み、地球環境や生物と人類の経済活動の共存が可能となる、新たな「かなめ石」を生みだすため、経済学部に合流している私たちが、新たな叡智をもたらせるよう願っております。